



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イラク：治安情勢続報

10日にモスル市をはじめとするニナワ県を制圧した「イスラーム国」は、11日にさらに進撃を続け、サラーハッディーン県ティクリートをも制圧した。これを受け、マーリキー首相は「イスラーム国」の次の進撃先と思われるサーマッラーで部族兵や志願兵からなる部隊編成に着手、ムクタダー・サドルも南イラクの諸県での募兵・部隊編成を呼びかけた。また、イランがイラクとの国境地域での警戒態勢を強化した上、トルコも NATO に緊急会合開催を呼びかけた。トルコは、「イスラーム国」がモスル市の領事館でとらえたトルコ人48名に危害を加えた場合、イラクに介入すると警告した。

「イスラーム国」は、SNSを通じてニナワ県での攻勢について声明や映像・画像を発表した。この中には、シリアとの国境に築かれた土塁を重機で破壊して、「サイクス・ピコの境界を破壊した」と誇る画像複数が含まれる。同派は、攻勢についての声明では、「諜報・調査を経て敵方の弱点を把握した上で攻撃をしかけた」と述べ、作戦準備に一定の時間をかけたことを示唆した。また、公式報道官アブー・ムハンマド・アドナーニー名義の演説ファイル（約17分）を発表し、配下の戦闘員に進撃を続けるよう呼びかけた他、「ラーフィダ（＝シーア派に対する蔑称）」と決着をつけるのはサーマッラーやバグダードではなく、カルバラやナジャフであると主張して、南方へ進撃する意図を明らかにした。

考察

公式報道官の演説が出回ったことにより、「イスラーム国」が組織としてイラクでの領域占拠に本格的に乗り出したことが明らかになった。但し、これまでに同派が発信した情報には、何故シリアで他の武装勢力諸派と抗争する中で多大な資源・労力を費やしてイラクで大規模な攻勢を実施したのか、或いはキルクーク、ディヤーラー、クルド地域にはどのように臨むのかを示す情報は含まれていない。「イスラーム国」の戦闘員は、サラーハッディーン県の諸都市を占拠し、サーマッラー、バグダード方面に進んでいるが、その一方でキルクークやディヤーラーへも同派の戦闘員が進攻している。クルド勢力との関係では、現時点でイラクのクルド地区の政府・部隊は事態への本格的な関与を避けている模様である。しかし、「イスラーム国」がイラク・シリア間の国境の破壊に乗り出した場合はシリアのクルド武装勢力との衝突が必至である。イラクのクルド勢力の関与はシリアでの諸派の動向にも左右されるだろう。

（イスラーム過激派モニター班）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799